



「おねがい
ななとこで
ないで...
つかるわ」

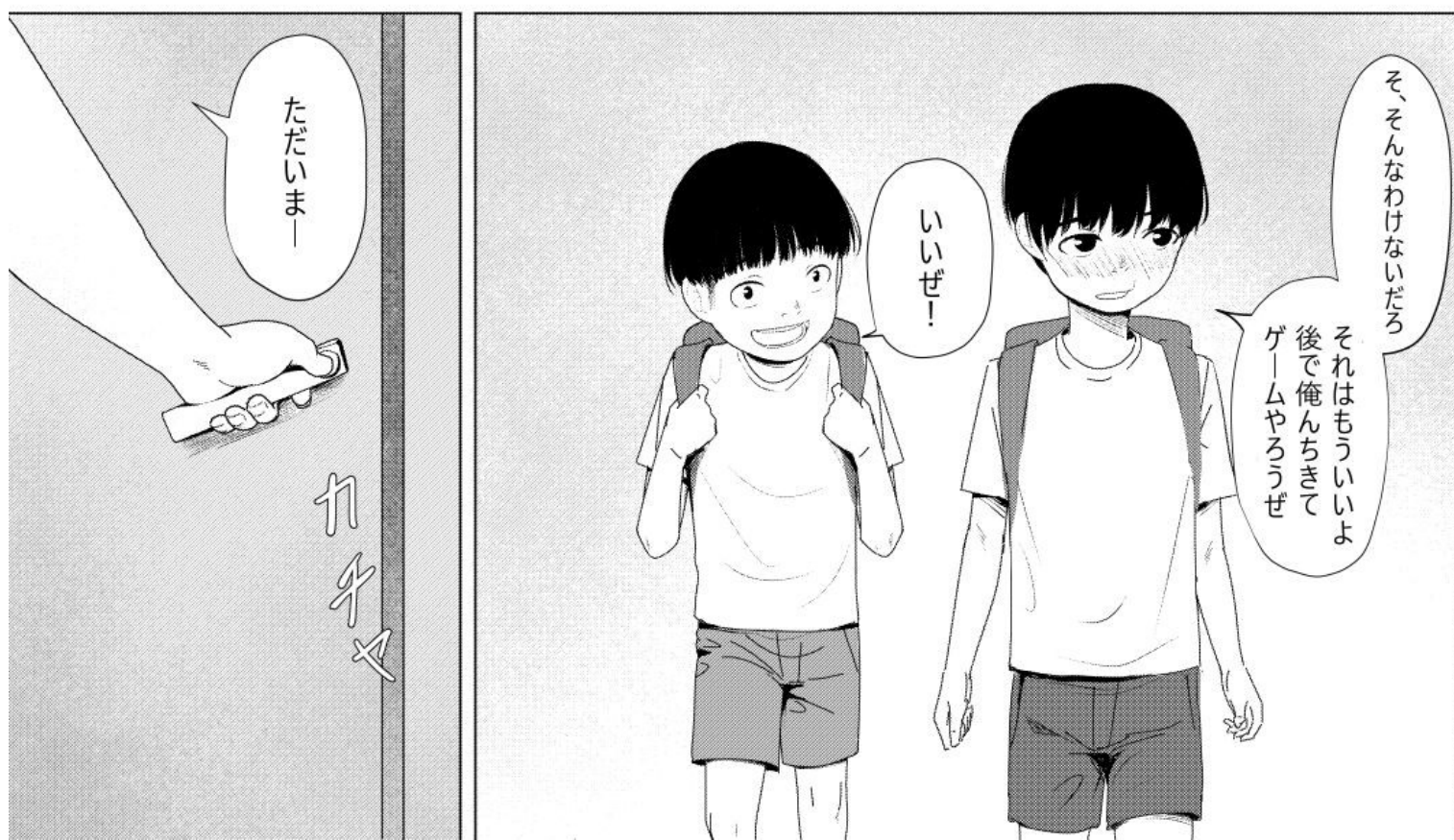
「こんなにも
濡れてるぜ」

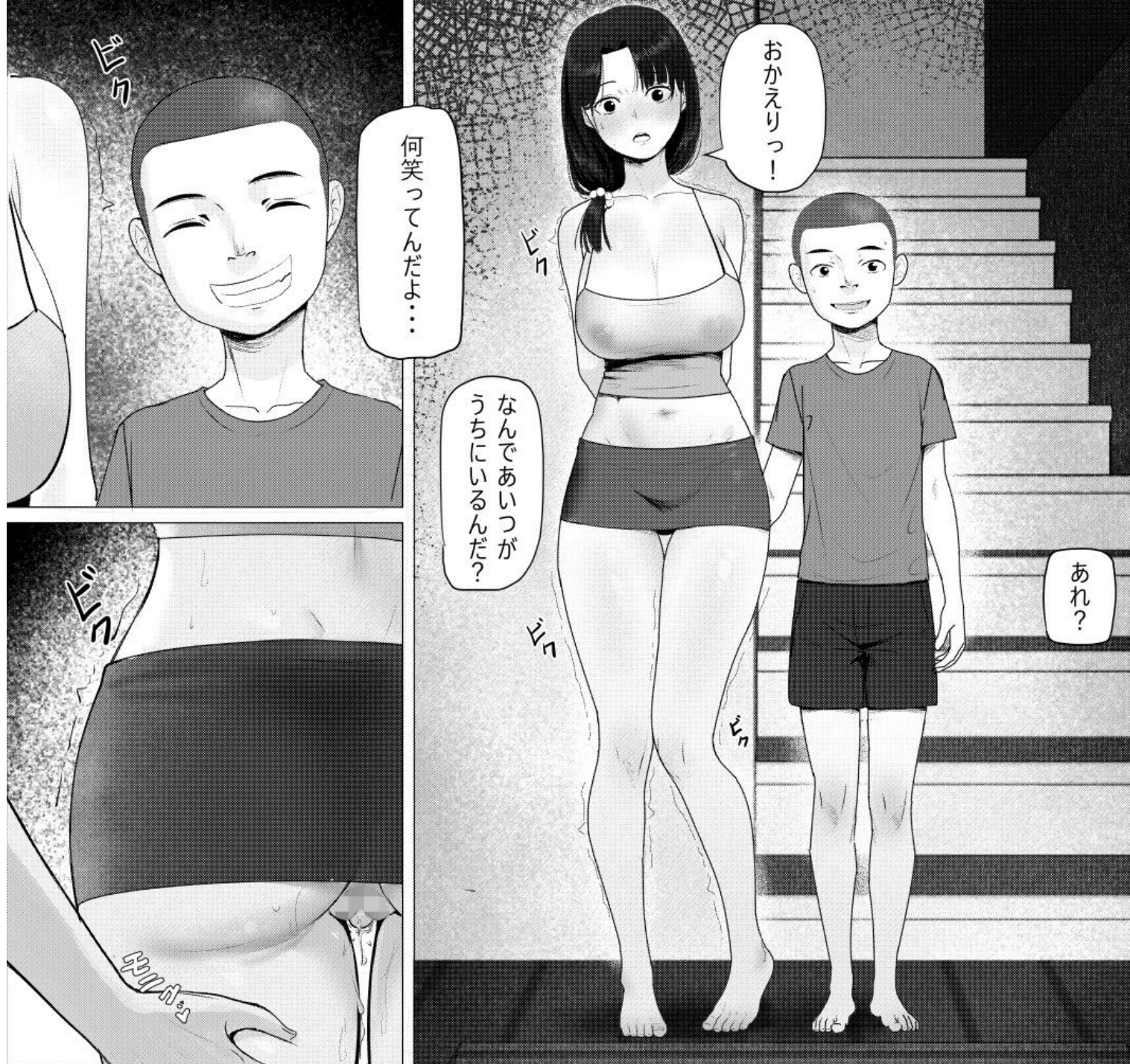
なんでこいつがウチの中に?

あれ?

なんであいつが
うちにいるんだ?

それに
こっこのほうが
興奮する
だろ?
仁達の母ちゃん」







あいつらゲーム
してるから
そんなにすぐ
降りてこねえよ…
へへっ



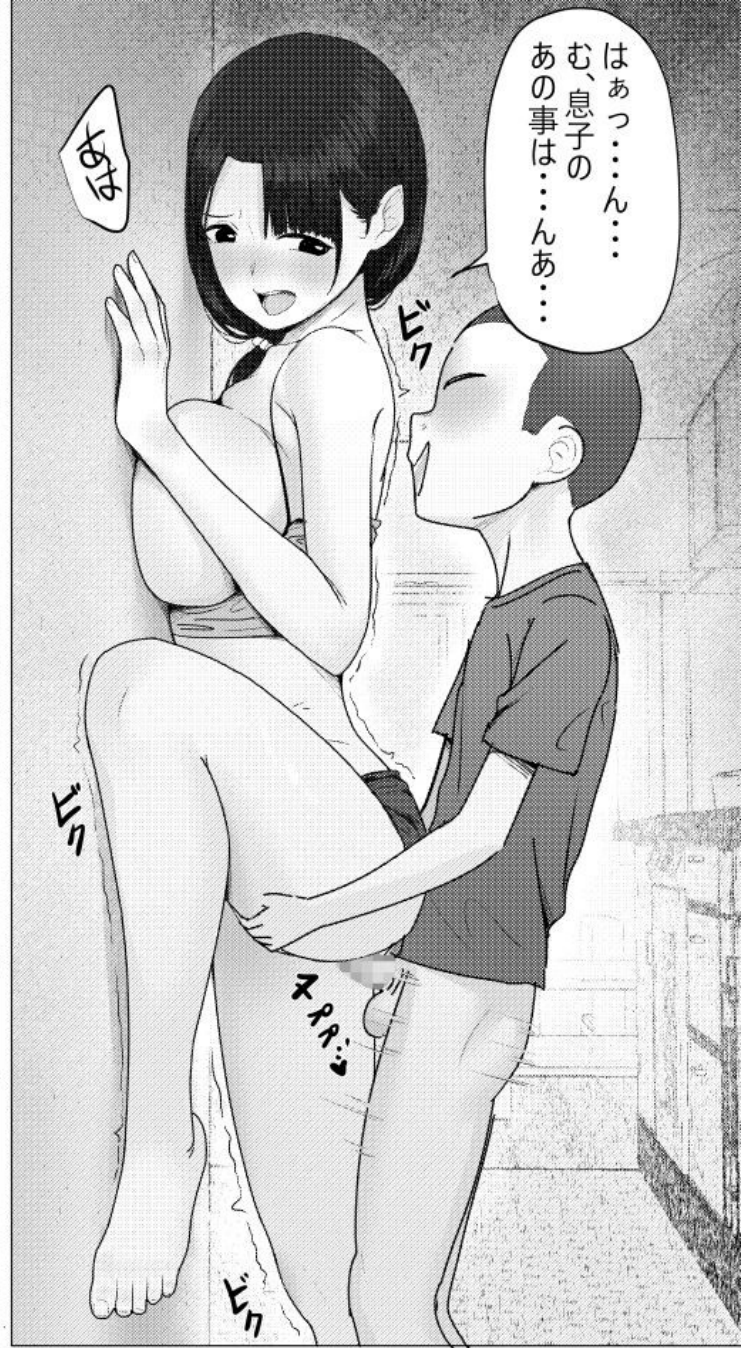
お：おねがい
こんなところで
しないで…
見つかるわ

おっ！
おまんこ
こんなにも
濡れてるぜ



イヤっ：やめて！
おねがいよこんな所じゃ
見つからちゃうわ！

それに
こっちのほう
が興奮する
だろ？
仁浩の母ちゃん

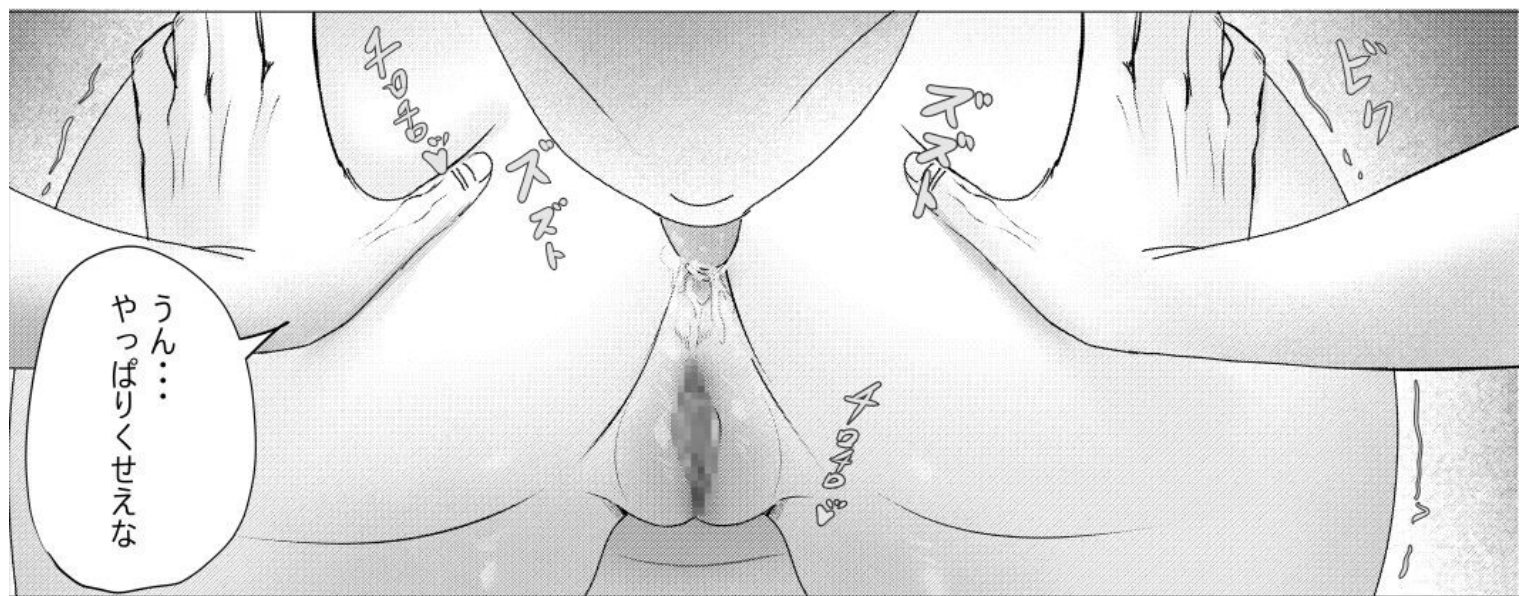




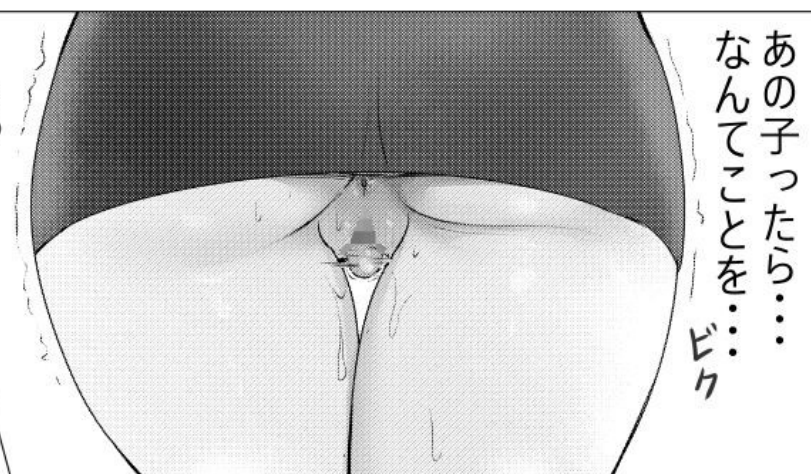
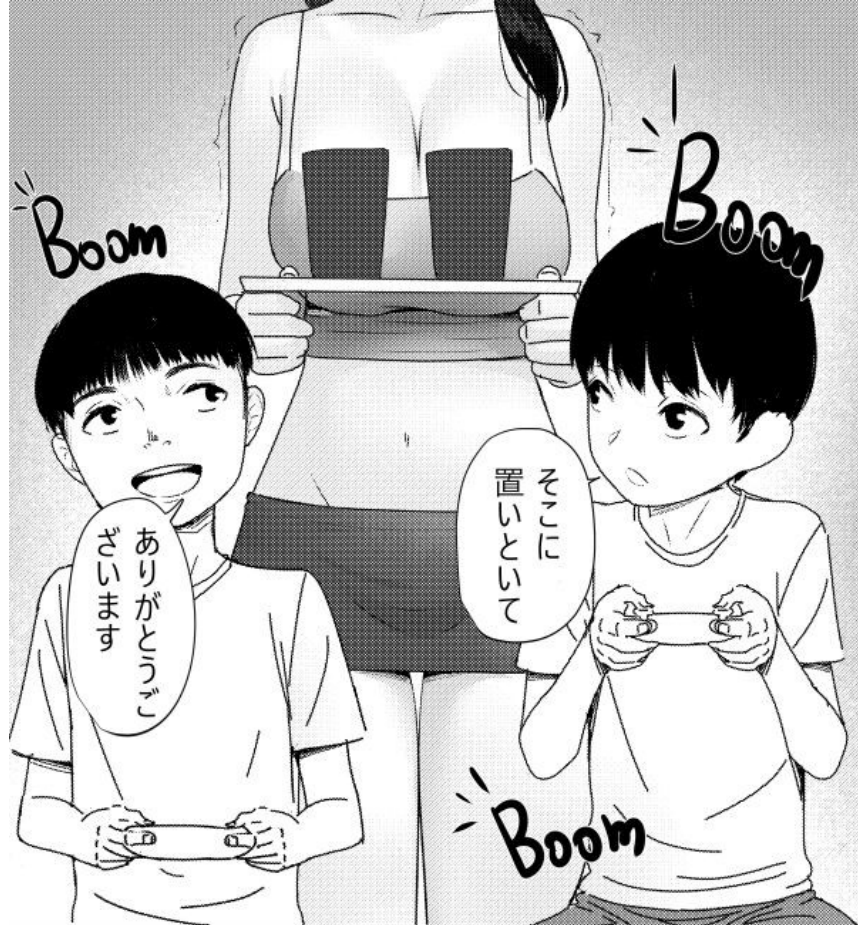








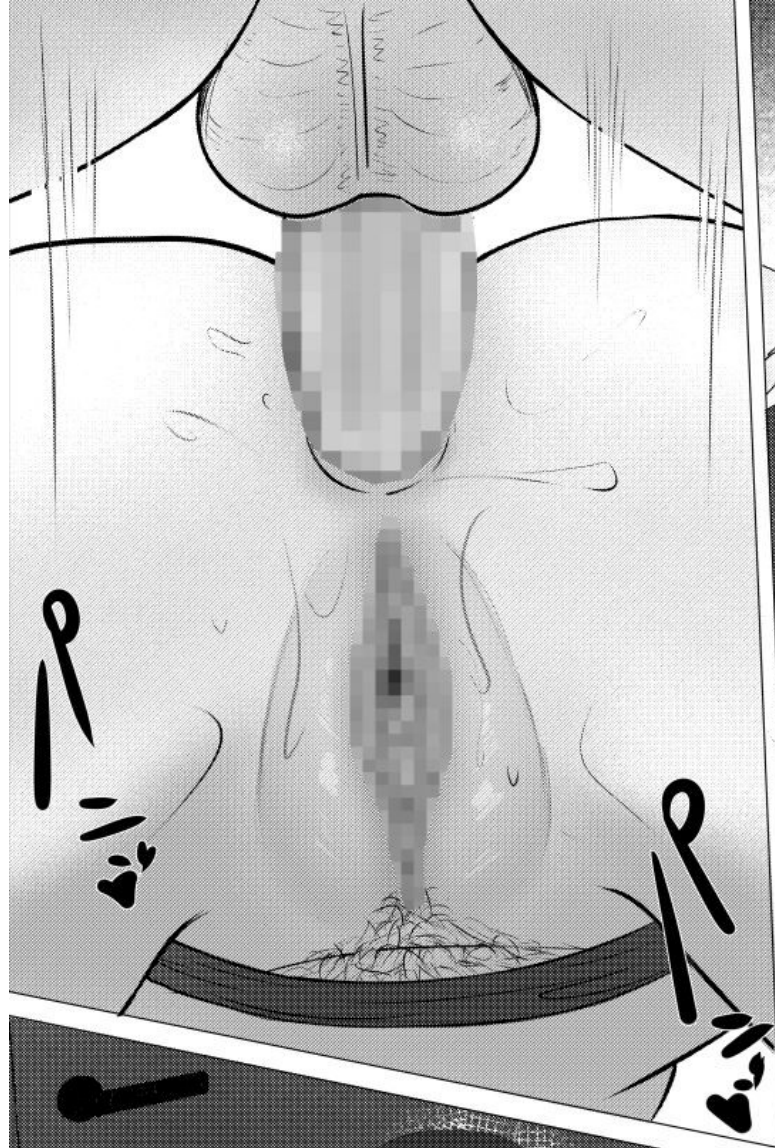




















お前の息子の彼女
ダンスやってるらしいな
全くうらやましいぜ



な…なにが
したいのよ!



やめて!
もう見ないで!

えっ?



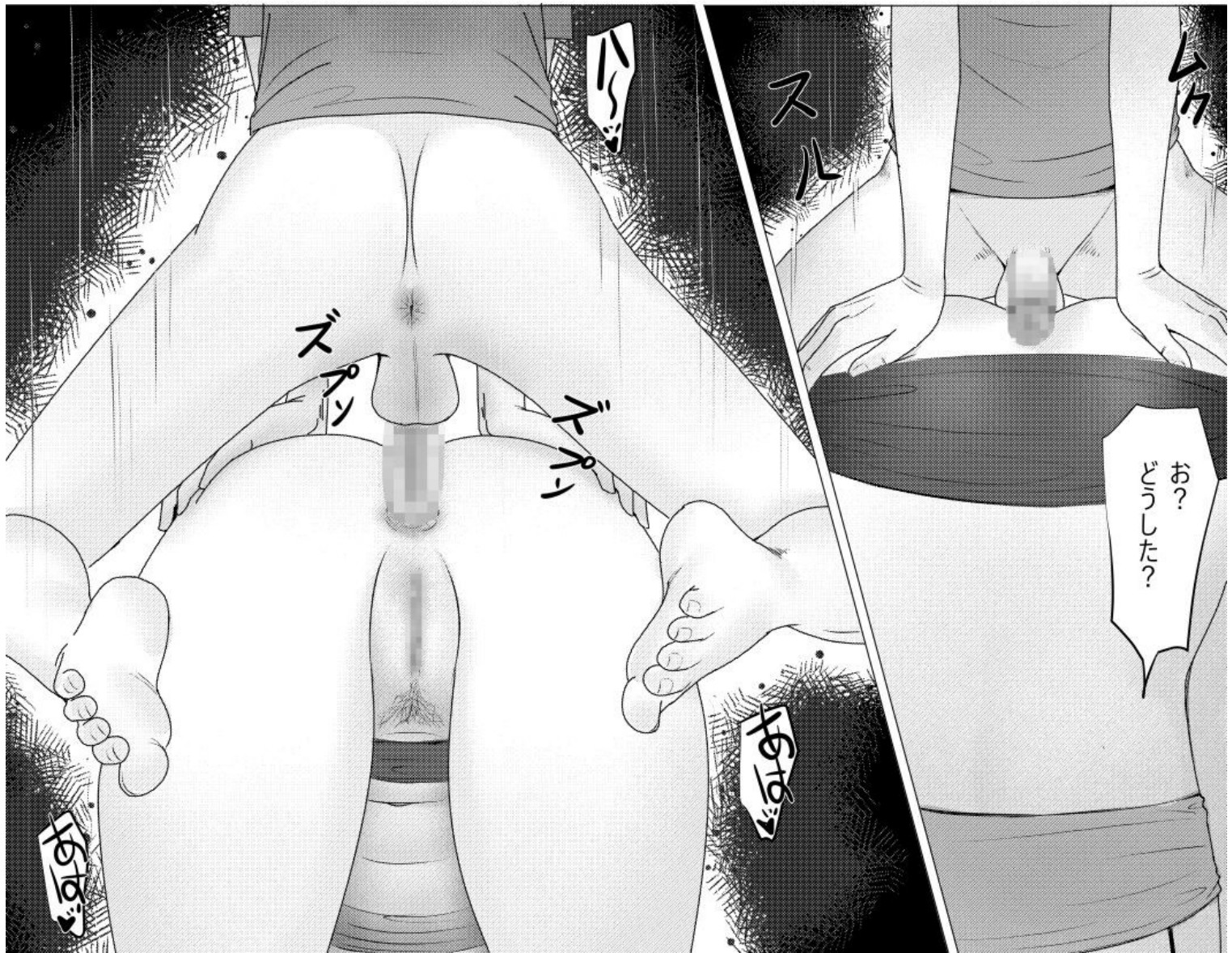
だ…大丈夫
入りそう!

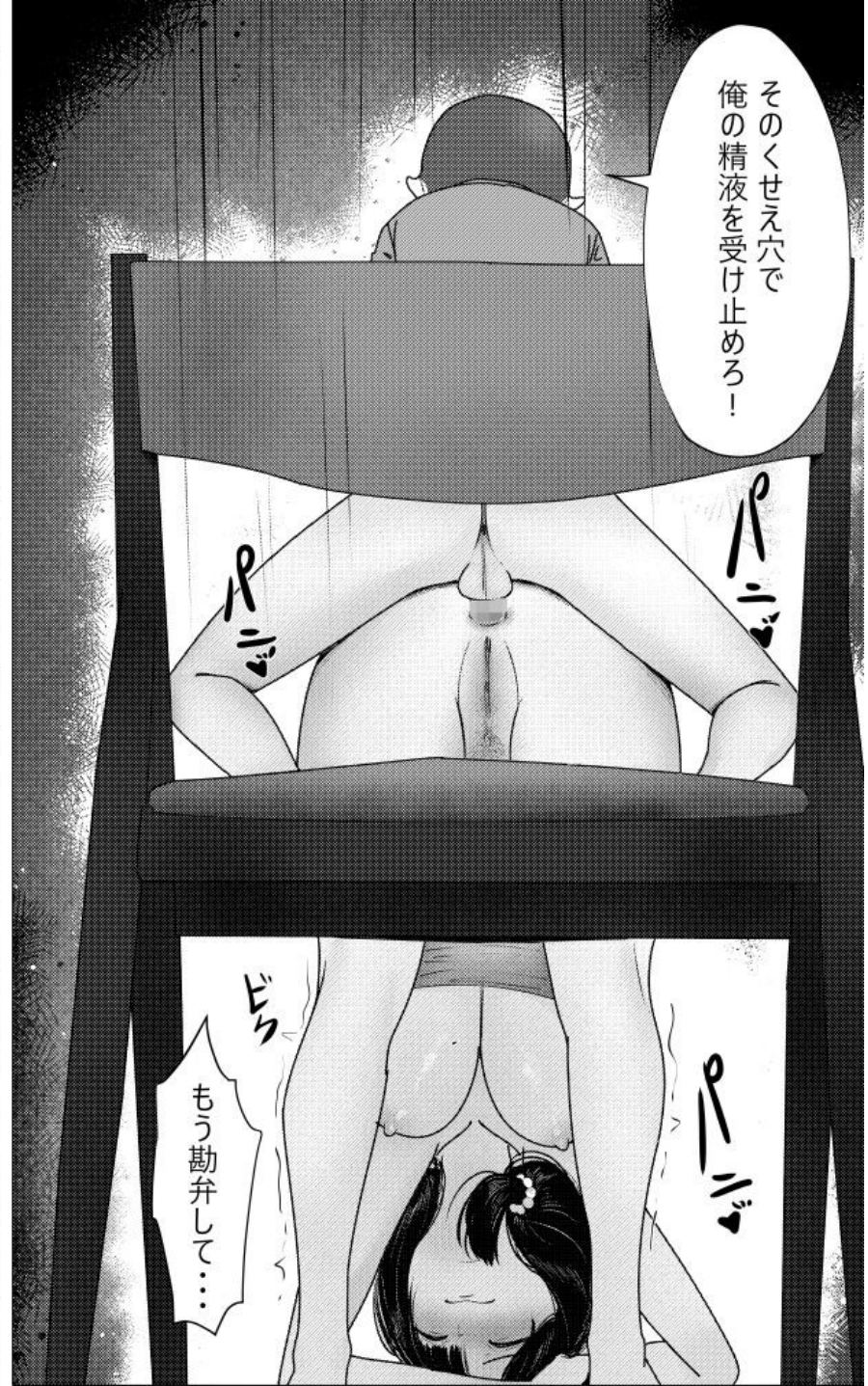
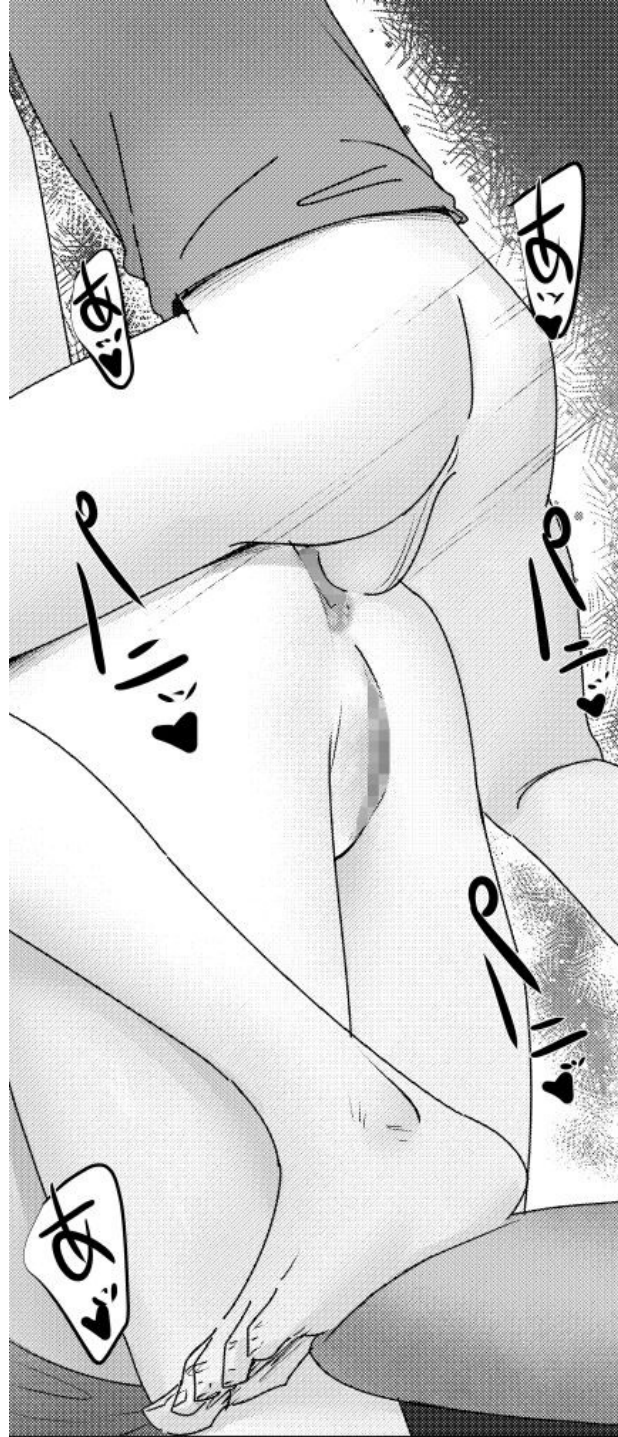
入られる?
仁浩君

じゃああんたが
息子の彼女と同じ
ポーズでやってくれよ











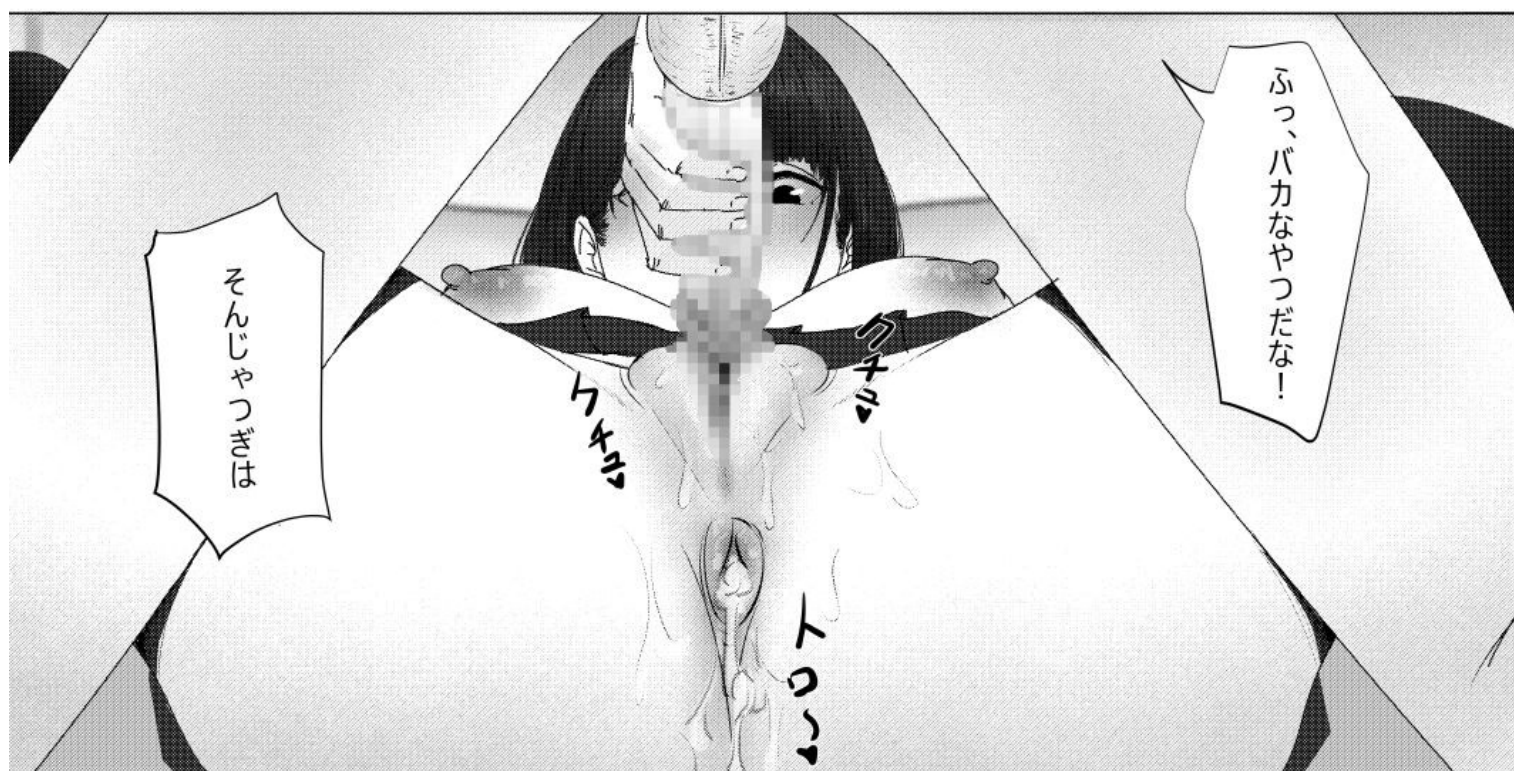


一晩中拡張したわりには
中々締めまりもまだ
いいじゃねえか！

出し入れしてると…
思わず出そうだけ

ギンッ









若い頃の
夫でさえ
こんな
感じなかったのに
そんな風に考えちゃだめ…

体は正直じゃねえか
仁浩の母ちゃんよお！



全身が快楽に
溺れていくのがわかる…



心の中でも
揺れ動いて…

でも…

そんなわけっ

